補足資料５

芸術文化に関する職員研修について

１　目的

プランが、芸術文化の価値を他分野の政策に活用したまちづくりを目指すことを目標としていることから、研修を通して、芸術文化の考え方を学び、自らの業務等に活かすきっかけとなることを目的とする。

また、これまで実施していた連携会議が形骸化していたことから、連携会議関係課に限らず、広く職員に体験しながら知ってもらう機会とした。

２　講座概要

日程	令和７年７月 30 日（水）　13 時 30 分～16 時 30 分
参加人数	24 名（大野城市職員 23 名、まどかぴあ職員 1 名）
講師	古賀今日子氏、長津結一郎氏
内容	・演劇的手法を用いた芸術文化ワークショップの体験 ・芸術文化と他分野との関連に関する意義や事例についての講義 ・大野城市の取組の紹介
講座設計時のポイント	担当者が日頃業務を遂行する中で課題だと思っていることや職員に知ってほしいことをもとに、以下の内容を講座の中に包含してもらうよう、講師に提案した。 ・職員同士の交流（コミュニケーション）を図るもの。 ・芸術文化を自分（自分の業務）に身近なものとして考えてもらうきっかけとするもの。 ・芸術文化に関する職員への理解、関心を深めるもの。

３　研修の様子

（１）演劇的手法を用いた芸術文化ワークショップの体験

・複数のワークショッププログラムを実施。要所に、講師がワークショップを実施する時に気を付けていることや考えていることを解説した。

・開始時点では、難しそうな顔をしながら参加していた職員が、最後のワークでは、自ら声を出し、他の職員の表現に反応し、コメントするなど積極的に参加していた。

・本研修は、新入職員から部長級までが参加したが、分け隔てなく楽しむことができていた。

（２）芸術文化と他分野との関連に関する意義や事例についての講義

・講義後、グループワークにて「自分たちの部署で芸術文化を取り入れ、何ができそうか」について考えた。異なる部署が集まったグループごとに、日頃の職員間でのやり取りの中や具体的な事業などが活用できる場として挙がった。

４　アンケート

研修後、アンケートを実施。（一部抜粋）

（１）本研修の経験で生まれた気づきがありましたら教えてください

＜回答まとめ＞

・職員間のコミュニケーションに関する回答や物事を柔軟に捉えることの重要性など、芸術文化がもたらす価値や芸術文化の考え方についての記述が目立っていた。

・芸術文化を身近で柔軟なツール、コミュニケーションを生み出す可能性があると考えていることが回答より伺える。

（２）本研修の経験をどのような場面で活かせそうですか（仕事や家庭どこでも構いません）

＜回答まとめ＞

・行政サービスへの活用だけでなく、職場内での職員同士の関係構築、家庭等の日々の暮らしなどあらゆる場面での活用の可能性を検討していただいた。

・「業務に自然に取り入れる」方法に言及している回答が複数あり、芸術文化を堅苦しく考えるのではなく、柔軟かつ手軽に活用する姿勢が重要視されていると感じる。

・研修を通じて、日頃の業務等でのコミュニケーションや物事の考え方を振り返る内容の回答もいくつか見られた。

（３）感想や意見など

＜回答まとめ＞

・研修の手段や形態が珍しく、戸惑いや驚きはあったものの、芸術文化のハードルを下げることにつながったという主旨の回答が多く見られた。また、楽しんで参加いただいたようである。

・本市の課題を解決する一つの方法として、芸術文化（表現）ワークショップを活用すると良いのではないかという意見も見られた。職員間のコミュニケーションや物事の捉え方、考え方など、より多くの職員への受講を進める意見も見受けられた。

・目的が伝わりづらかったとの指摘もがあった。

5　結果

・講座設計時に期待していた「職員同士のコミュニケーションを図る」「様々なモノの見方があることを再認識する」「過程を大切にする」「芸術文化との距離を近づける」という目標は、職員アンケートよりある程度は達成したと考えられる。

・アンケートでは、想定以上に今回の研修が「コミュニケーション」「考え方の柔軟性」という言葉が散見され、芸術文化の本質を体感してもらえたと思う。また、他の職員にも実施すべきとの声もあった。

・芸術文化特有の「自分を表現し、相手の表現を受け取る」ということを体感することや具体的な事例を提示することで、芸術文化が身近なものであると感じてもらうことができ、体験が改めて重要な要素だとわかった。

6　課題及び次年度以降の方針

・「体験」に重きを置いていたため、また日頃の研修との違いや違和感を持ってもらうため、会場レイアウトやプロジェクターの位置など工夫を行ったが、日頃座学ではない研修が実施されていないことから、漠然とした不安を与えてしまった。始めに目的等をしっかりと説明する、研修の合間に細かにワークの解説を入れる、また講義の時間を増やすなど、構成を見直す必要がある。

・職員研修は継続したいと考えている一方で、連携会議の在り方を再考する必要がある。現在のように固定化した部署が参加すべきなのか含め、今後検討したい。

以上